

I 調査の概要

1 目的

学校における幼児、児童及び生徒の発育及び健康の状態を明らかにすることを目的とする。

2 調査の根拠

学校保健統計調査規則（昭和 28 年文部省令第 5 号）に基づいて実施される基幹統計調査。

3 調査の範囲・対象

(1) 調査の範囲は、幼稚園、幼稚園型認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び中等教育学校のうち、文部科学大臣があらかじめ指定した学校。

(以下「調査実施校」という。)

(2) 調査の対象は、調査実施校に在籍する満 5 歳から 17 歳（平成 30 年 4 月 1 日現在）までの幼児、児童及び生徒（以下「児童等」という。）の一部。

※幼保連携型認定こども園は、幼稚園部分（子ども・子育て支援法第 19 条第 1 項第 1 号に該当する園児）のみを対象とする。

4 調査事項

(1) 発育状態調査

児童等の発育状態（身長及び体重）

(2) 健康状態調査

児童等の健康状態（栄養状態、脊柱・胸郭・四肢の状態・異常の有無、視力、聴力、眼の疾病・異常の有無、耳鼻咽喉頭疾患の有無、皮膚疾患の有無、歯・口腔の疾病・異常の有無、結核の有無、心臓の疾病・異常の有無、尿、その他の疾病・異常の有無及び結核に関する検診の結果）

(3) 相談員配置状況

児童が悩みや不安を気軽に相談できる話し相手として、また学校と保護者・地域のパイプ役として、不登校・問題行動等を未然防止や早期発見・早期対応に当たる者。

(4) スクールカウンセラー配置状況

臨床心理に関し高度に専門的な知識・経験を有する者であり、心の専門家として、専門性を有しつつ、児童生徒へのカウンセリング、教職員及び保護者に対する助言・援助を行う者。

5 調査の期日

平成 30 年 4 月 1 日から 6 月 30 日までの間に実施された学校保健安全法（昭和 33 年法律第 56 号）による健康診断の結果に基づき調査。

6 調査実施校数及び調査対象者数

調査実施校数、調査対象者数は次のとおりである。

調査実施校の内訳

区分	県全体		(園、校)	調査実施校数			
	学校数 (園、校)	幼児・児童 生徒数(人)		発育状態調査		健康状態調査	
				対象者数(人)	抽出率(%)	対象者数(人)	抽出率(%)
幼稚園 (5歳児)	47	1,749	26	930	53.2	1,162	66.4
小学校	125	28,939	56	5,313	18.4	19,178	66.3
中学校	60	15,063	36	4,229	28.1	12,150	80.7
高等学校	32	15,033	23	2,014	13.4	12,891	85.8
計	264	60,784	141	12,486	20.5	45,381	74.7

※抽出率＝（調査対象者数）／（平成30年度学校基本調査学校区人数（確報値））

II 調査結果の概要

1 発育状態

(1) 身長

身長の平均値の推移は、男子は平成13年度あたりから横ばい傾向となっており、女子は平成9年度あたりから横ばい又は減少傾向となっている。

ア 前年度との比較

- 男子は、5歳、9歳、11歳、13歳及び15歳～17歳で前年度より高くなっており、6歳～8歳、10歳、12歳及び14歳で前年度より低くなっている。
- 女子は、5歳、7歳、9歳～12歳及び14歳で前年度より高くなっており、8歳、13歳、15歳及び17歳で前年度より低くなっている。6歳及び16歳は前年度と同水準であった。
- 前年度より最も伸びの大きい年齢は、男子は11歳の145.7cm(1.0cm)、女子は9歳の134.2cm(0.9cm)となっている。

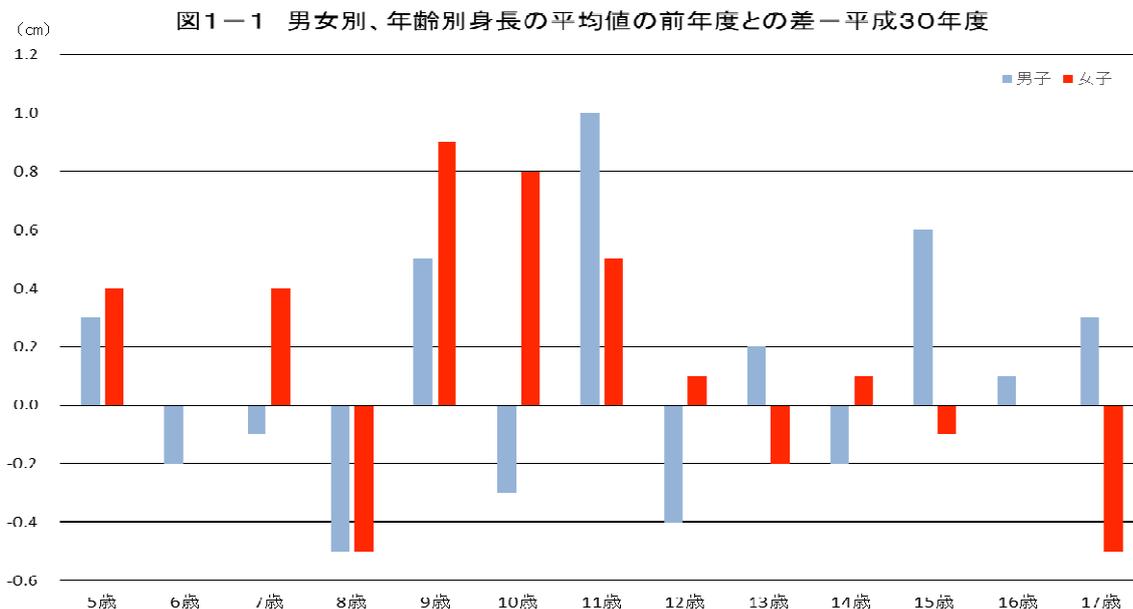
イ 全国平均値との比較

- 男子は、5歳、9歳、11歳、13歳～15歳及び17歳で全国平均値を上回り、6歳～8歳、10歳及び12歳で全国平均値を下回っている。16歳は全国平均値と同水準であった。
- 女子は、5歳、7歳、9歳～11歳及び15歳で全国平均値を上回り、6歳、8歳、12歳及び14歳で全国平均値を下回っている。13歳、16歳及び17歳は全国平均値と同水準であった。
- 全国平均値を最も上回っている年齢は、男子は13歳の160.6cm(0.8cm)、女子は9歳の134.2cm(0.8cm)となっている。

ウ 30年前(親の世代)との比較

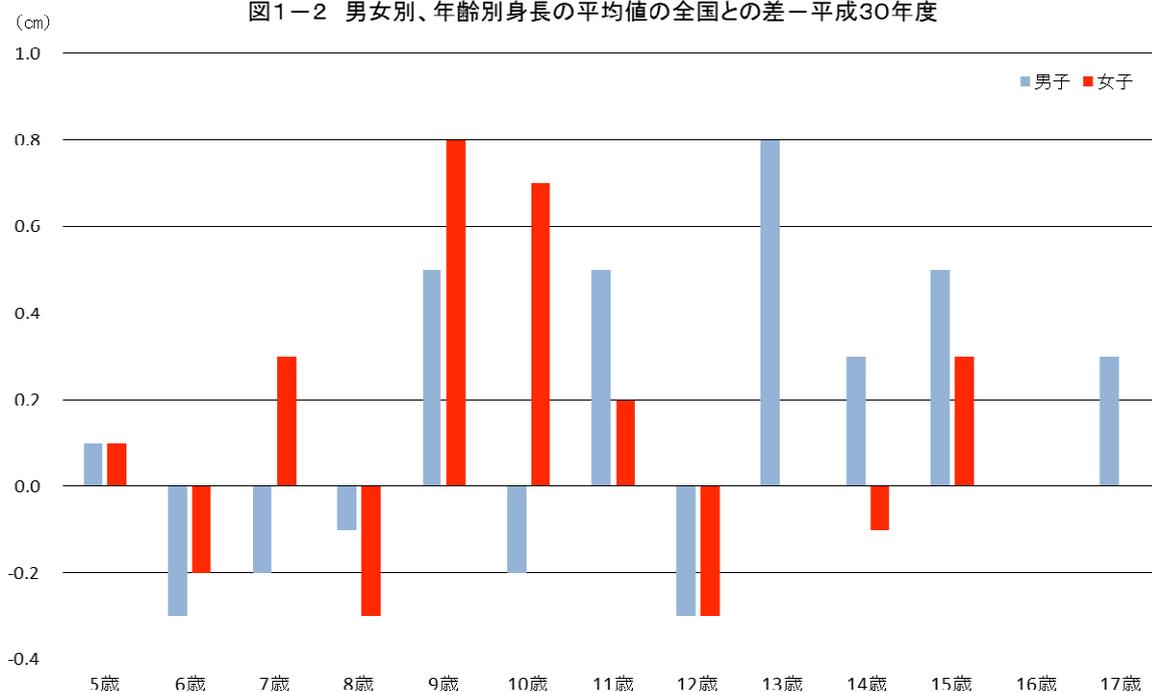
- 男子は、5歳で低くなっているほかは、30年前より高くなっている。
- 女子は、5歳、6歳、8歳及び16歳で30年前より低くなっているほかは、30年前より高くなっている。
- 30年前より最も伸びの大きい年齢は、男子は13歳の160.6cm(2.7cm)、女子は10歳の140.8cm(1.9cm)となっている。

(統計表 第1表、第2-1～3表)



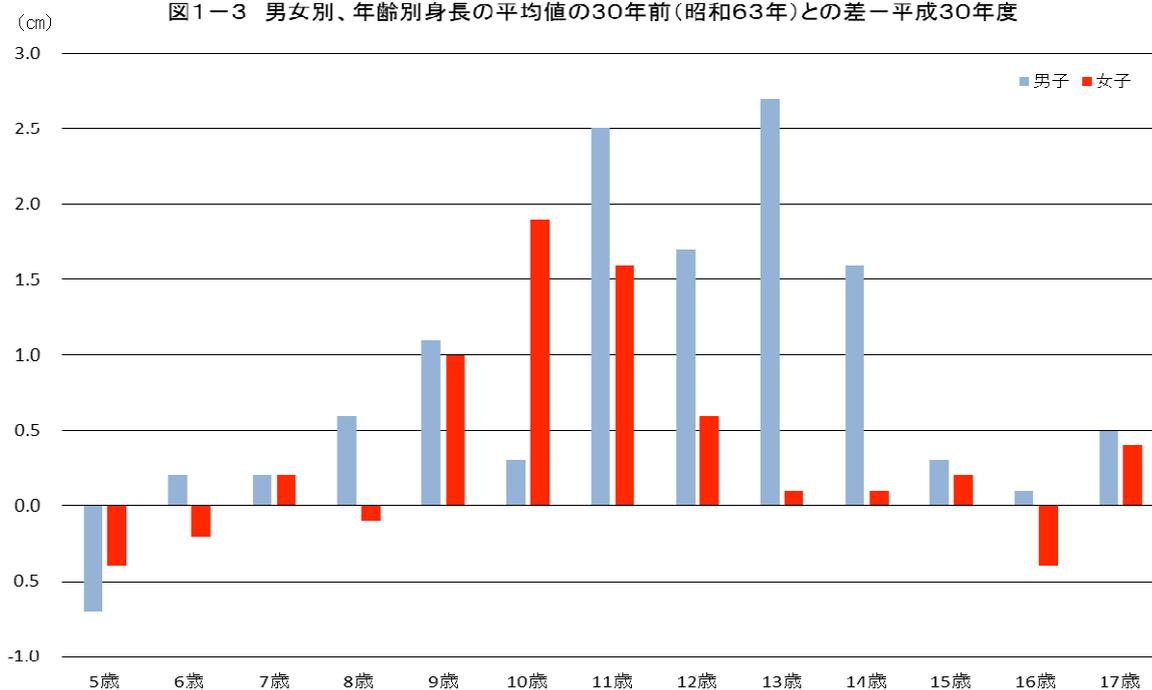
(注) 女子の6歳及び16歳は前年度と同水準

図1-2 男女別、年齢別身長の平均値の全国との差—平成30年度



(注) 男子の16歳、女子の13歳、16歳及び17歳は、全国平均値と同水準

図1-3 男女別、年齢別身長平均値の30年前(昭和63年)との差—平成30年度



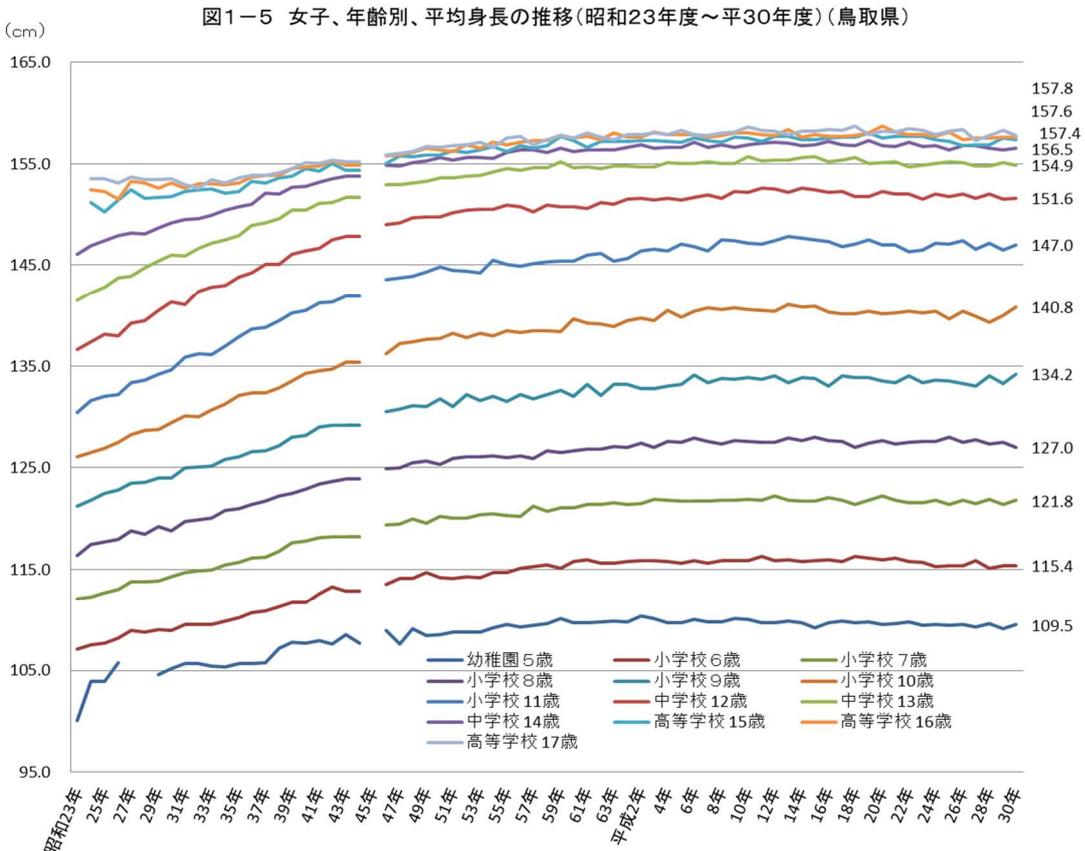
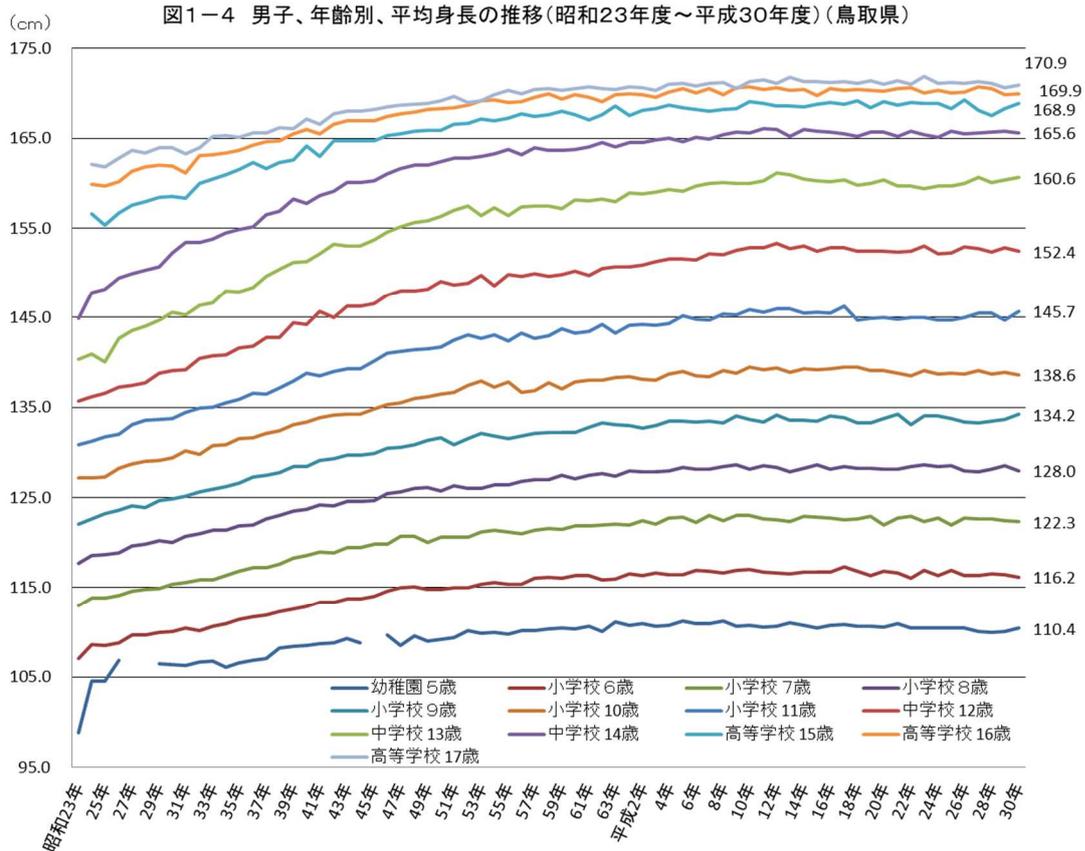
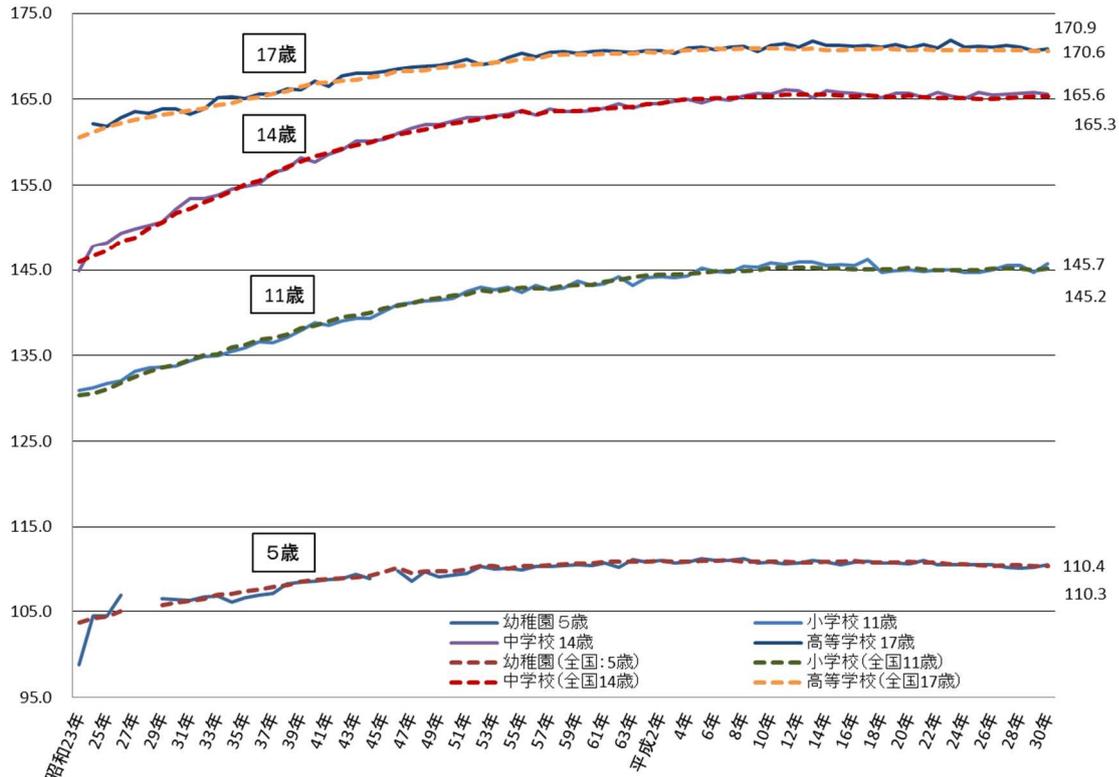
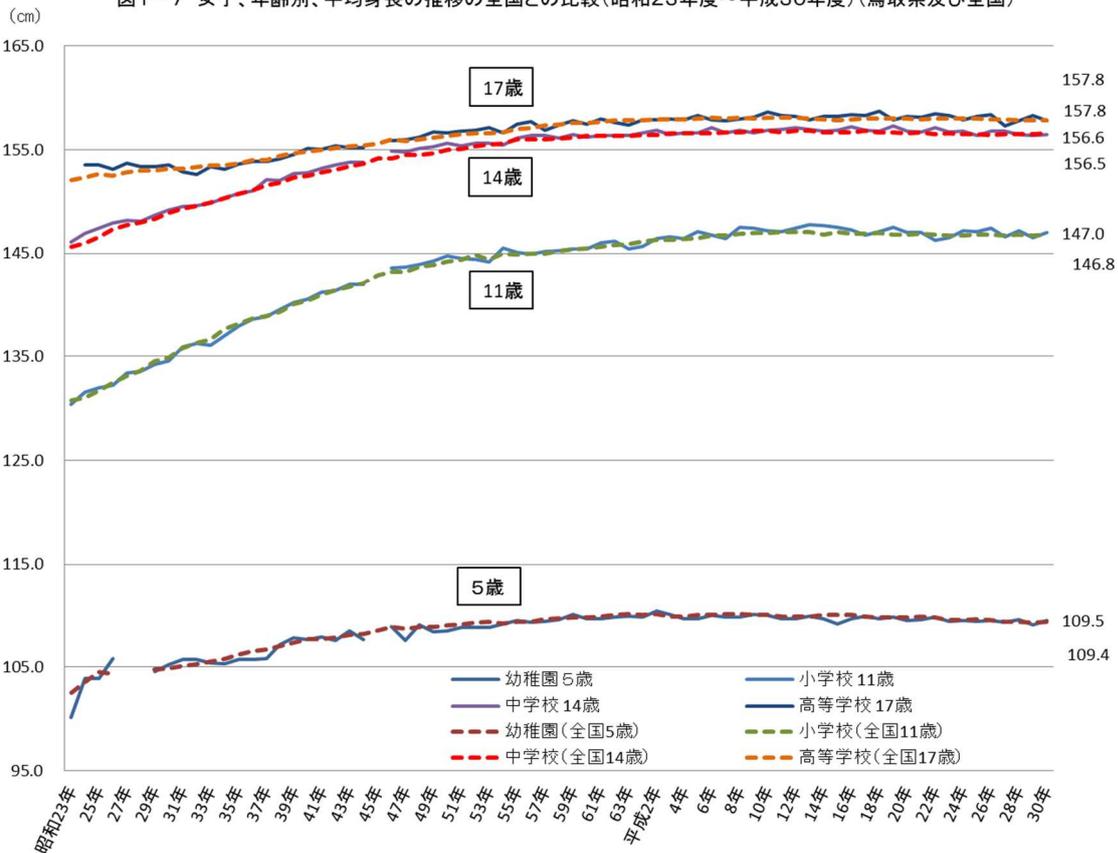


図1-6 男子、年齢別、平均身長推移の全国との比較(昭和23年度～平成30年度)(鳥取県及び全国)



(注) グラフの欠落部分は、「…」処理のため連続しない。

図1-7 女子、年齢別、平均身長推移の全国との比較(昭和23年度～平成30年度)(鳥取県及び全国)



(注) グラフの欠落部分は、「…」処理のため連続しない。

(2) 体重

体重の平均値の推移は、男子は平成 17 年度あたりから横ばい又は減少傾向となっており、女子は平成 9 年度あたりから横ばい又は減少傾向となっている。

ア 前年度との比較

- ・男子は、10 歳、11 歳及び 13 歳で前年度より増加し、5 歳～8 歳、12 歳及び 14 歳～17 歳で前年度より減少している。9 歳は前年度と同水準であった。
- ・女子は、5 歳、7 歳、9 歳～12 歳及び 15 歳で前年度より増加し、6 歳、13 歳、14 歳、16 歳及び 17 歳で前年度より減少している。8 歳は前年度と同水準であった。
- ・前年度より最も増加の大きい年齢は、男子は 11 歳の 38.7 kg (1.1 kg)、女子は 10 歳の 34.7 kg (0.8 kg) 及び 11 歳の 39.4 kg (0.8 kg) となっている。

イ 全国平均値との比較

- ・男子は、11 歳及び 13 歳で全国平均値を上回り、5 歳～8 歳、10 歳、12 歳及び 14 歳～17 歳で全国平均値を下回っている。9 歳は全国平均値と同水準であった。
- ・女子は、7 歳、9 歳～11 歳、15 歳及び 16 歳で全国平均値を上回り、5 歳、6 歳、12 歳～14 歳及び 17 歳で全国平均値を下回っている。8 歳は全国平均値と同水準であった。
- ・全国平均値を最も上回っている年齢は、男子は 13 歳の 49.4 kg (0.6 kg)、女子は 10 歳の 34.7 kg (0.6 kg) となっている。

ウ 30 年前（親の世代）との比較

- ・男子は、6 歳～14 歳及び 17 歳で 30 年前より増加し、5 歳及び 15 歳で 30 年前より減少している。16 歳は 30 年前と同水準であった。
- ・女子は、6～12 歳、15 歳及び 17 歳で 30 年前より増加し、5 歳、14 歳及び 16 歳で 30 年前より減少している。13 歳は 30 年前と同水準であった。
- ・30 年前より最も増加の大きい年齢は、男子は 11 歳の 38.7 kg (2.5 kg) 及び 13 歳の 49.4 kg (2.5 kg)、女子は 10 歳の 34.7 kg (1.9 kg) となっている。

(統計表 第 1 表、第 3-1～3 表)

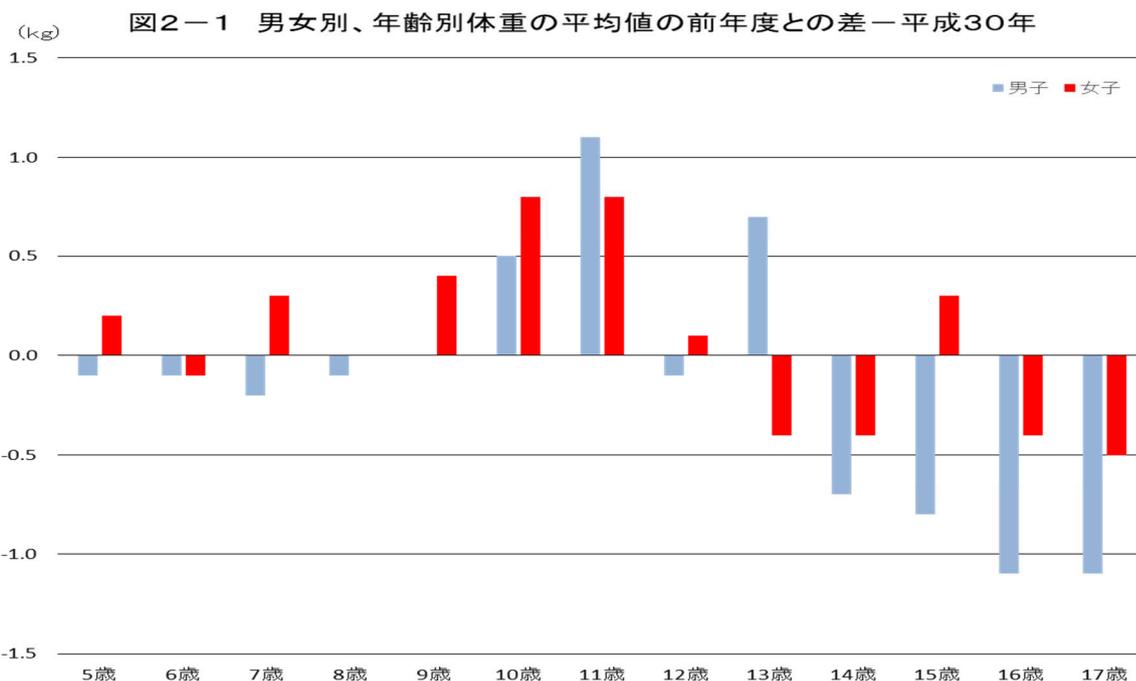
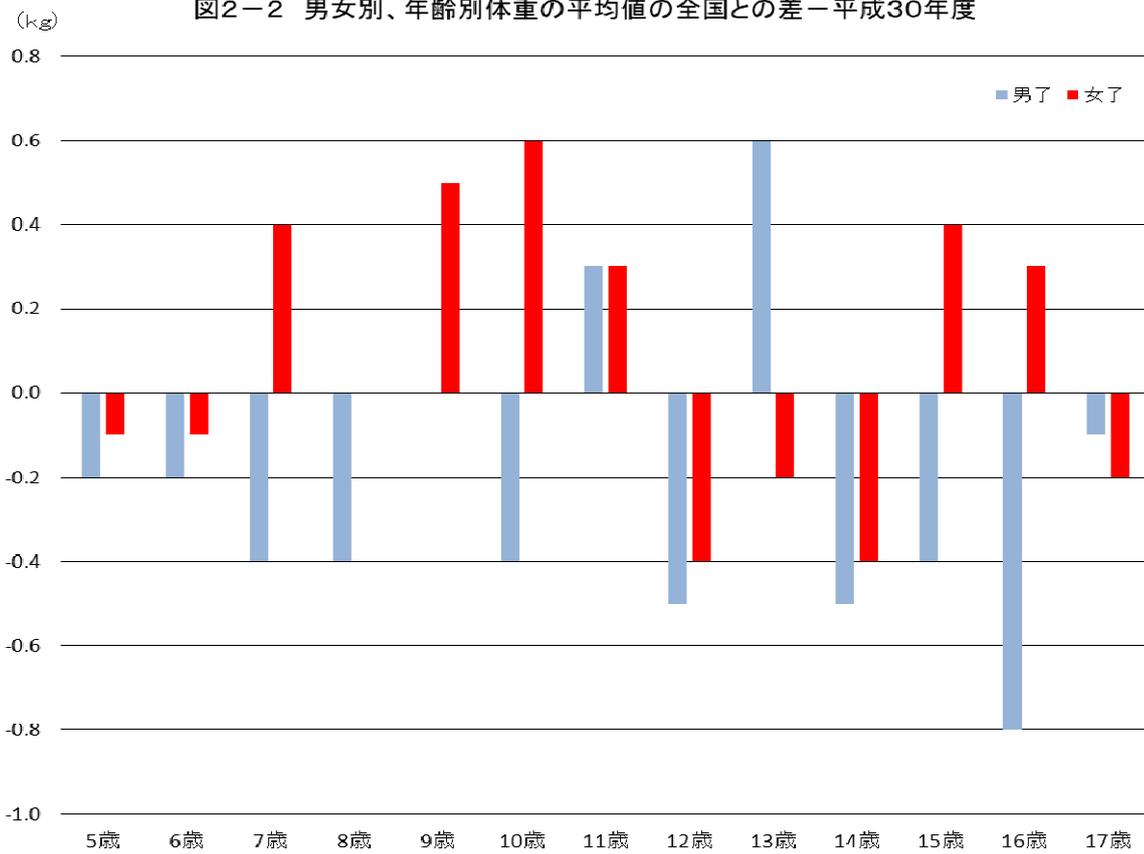
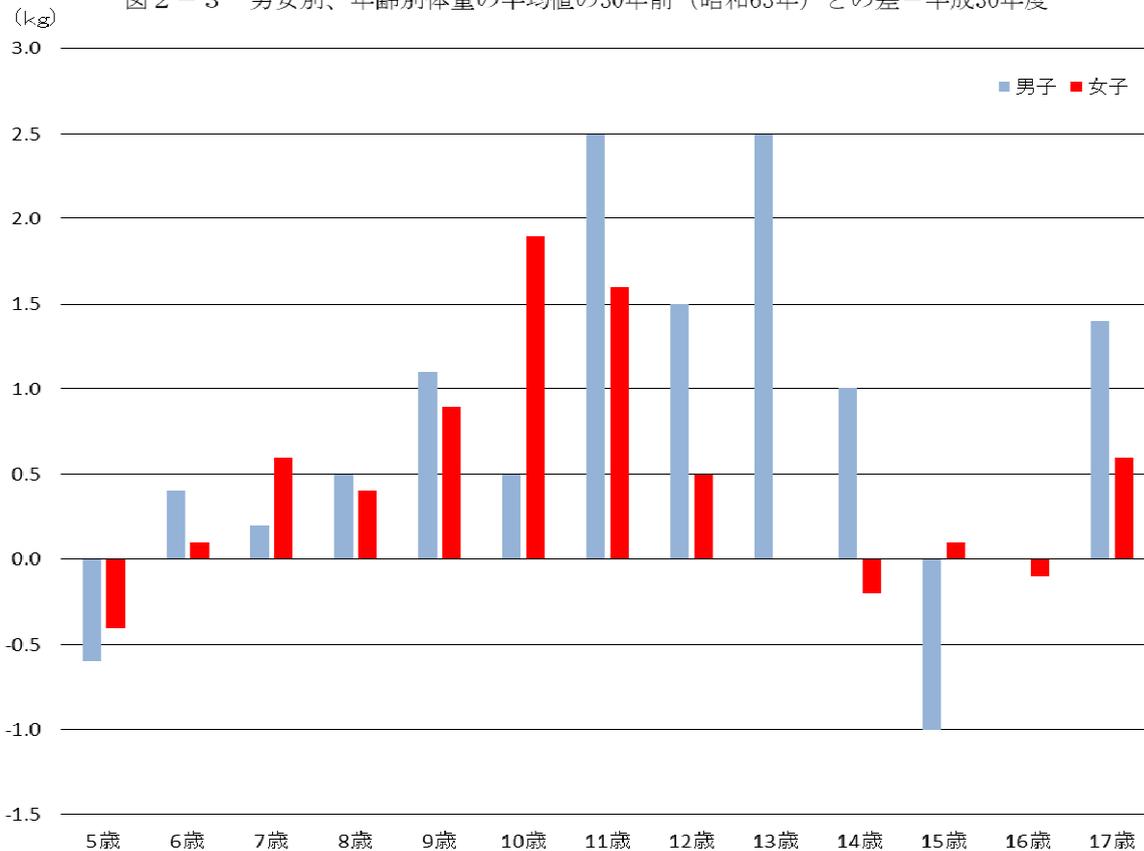


図2-2 男女別、年齢別体重の平均値の全国との差—平成30年度



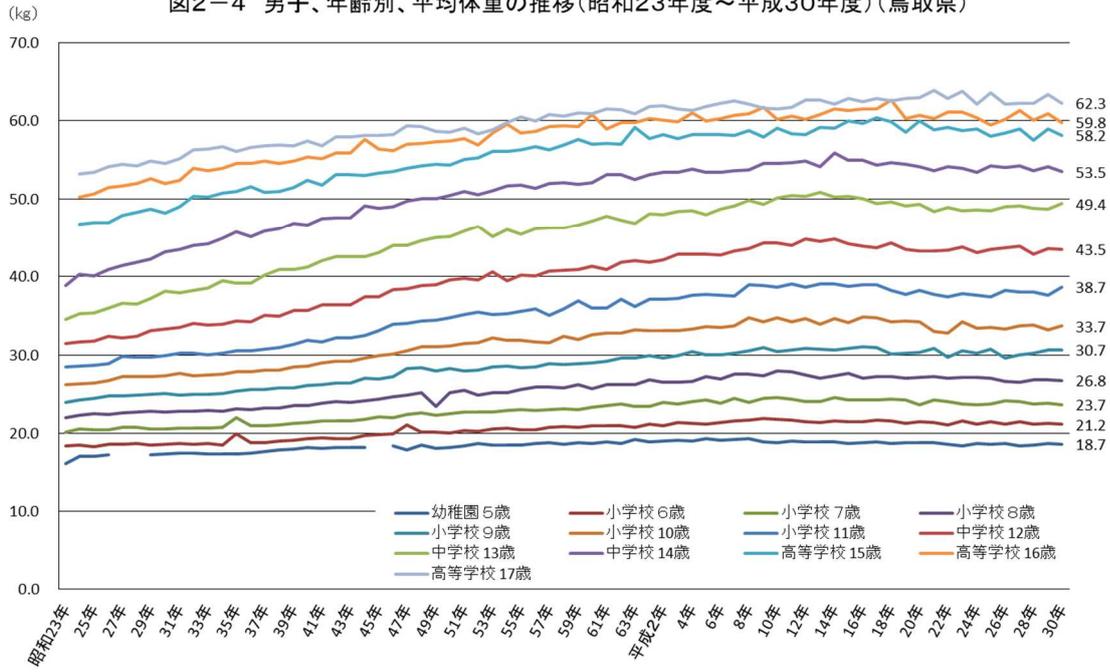
(注) 男子の9歳、女子の8歳は、全国平均値と同水準

図2-3 男女別、年齢別体重の平均値の30年前（昭和63年）との差—平成30年度



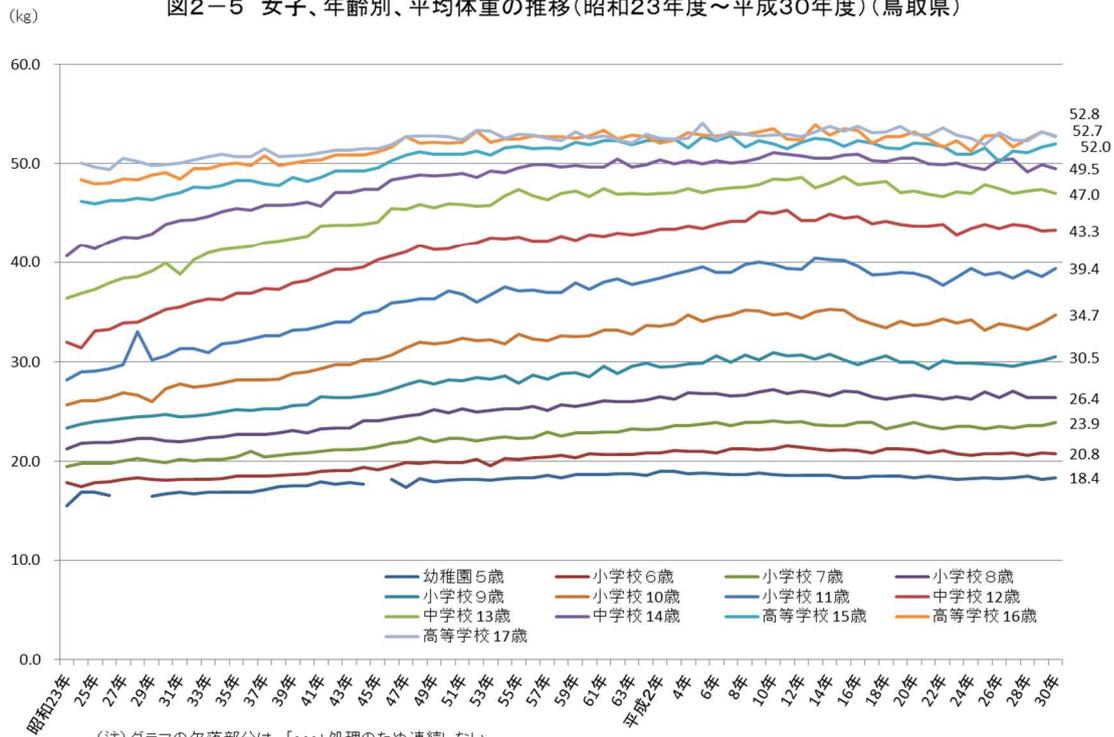
(注) 男子の16歳、女子の13歳は、30年前と同水準

図2-4 男子、年齢別、平均体重の推移(昭和23年度～平成30年度)(鳥取県)



(注) グラフの欠落部分は、「…」処理のため連続しない。

図2-5 女子、年齢別、平均体重の推移(昭和23年度～平成30年度)(鳥取県)



(注) グラフの欠落部分は、「…」処理のため連続しない。

図2-6 男子、年齢別、平均体重の推移の全国との比較(昭和23年度～平成30年度)(鳥取県及び全国)

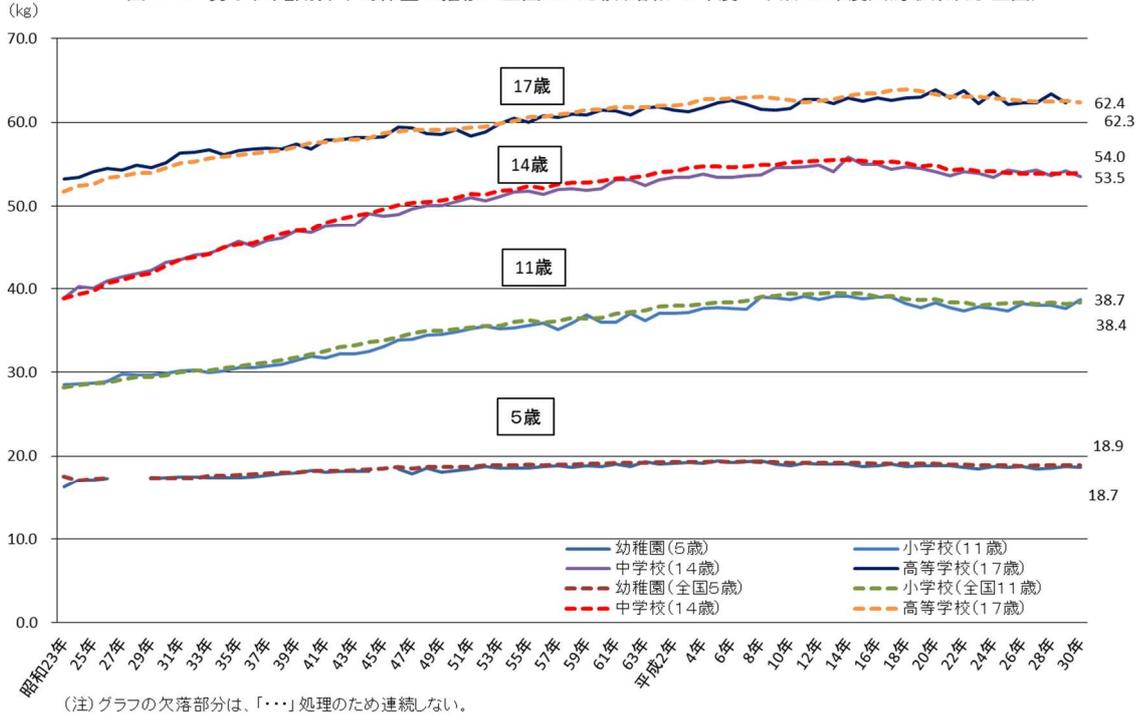
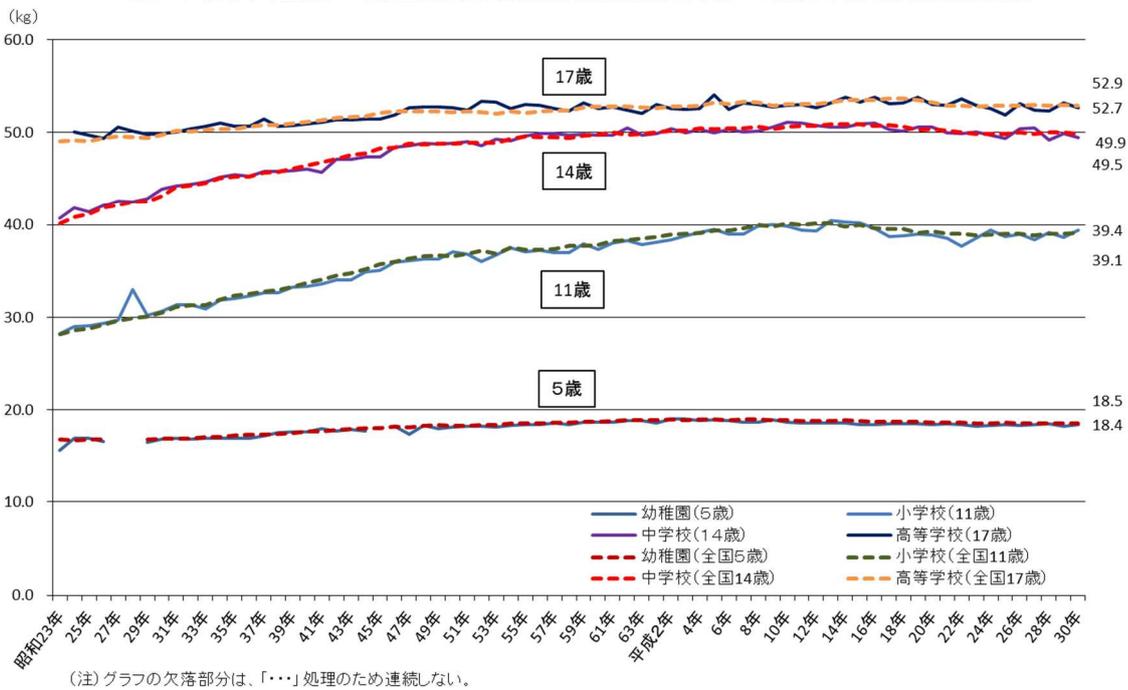


図2-7 女子、年齢別、平均体重の推移の全国との比較(昭和23年度～平成30年度)(鳥取県及び全国)



(3) 肥満傾向児の出現率

肥満傾向児の出現率は、年齢別でバラツキはあるが幼稚園（5歳）で1.87%（全国44位）と低くなっている。

ア 前年度との比較

- ・前年度と比べると、8歳、10歳～12歳及び16歳で前年度を上回り、5歳～7歳、9歳、13歳～15歳及び17歳で前年度を下回っている。

イ 全国との比較

- ・全国と比べると、10歳、11歳及び17歳で全国を上回り、5歳～9歳及び12歳～16歳で全国を下回っている。

（統計表 第4-1～5表）

図3-1 年齢別、肥満傾向児の出現率の前年度との比較—平成29、30年（鳥取県）

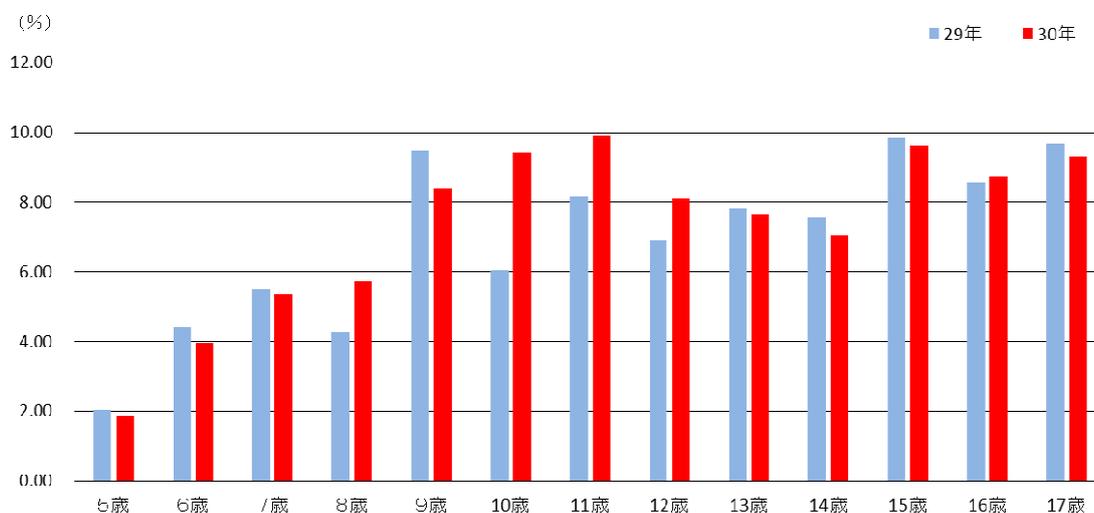


図3-2 年齢別、肥満傾向児の出現率の全国との比較—平成30年（鳥取県及び全国）



(4) 痩身傾向児の出現率

痩身傾向児の出現率は、年齢別でバラツキはあるが高等学校（17歳）で3.27%（全国2位）で過去最高となっている。

ア 前年度との比較

- ・前年度と比べると、7歳、8歳、10歳～14歳、16歳及び17歳で前年度を上回り、5歳、6歳及び15歳で前年度を下回っている。9歳は前年度と同水準であった。

イ 全国との比較

- ・全国と比べると、6歳、7歳、12歳、13歳、16歳及び17歳で全国を上回り、5歳、8歳～11歳、14歳及び15歳で全国を下回っている。

（統計表 第5-1～5表）

図4-1 年齢別、痩身傾向児の出現率の前年度との比較—平成29、30年度（鳥取県）

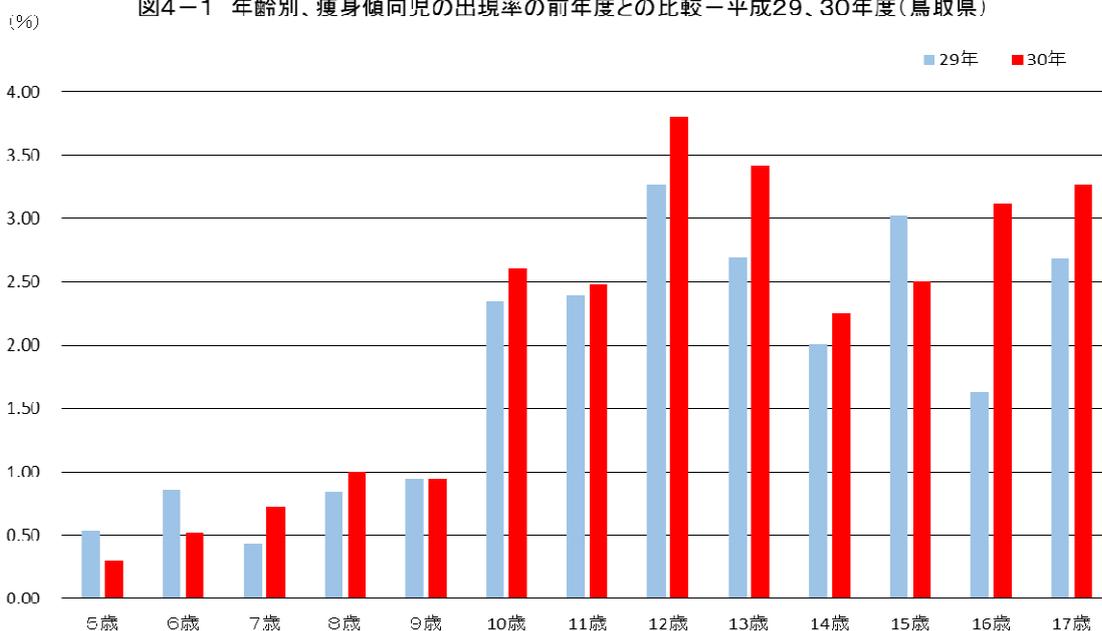
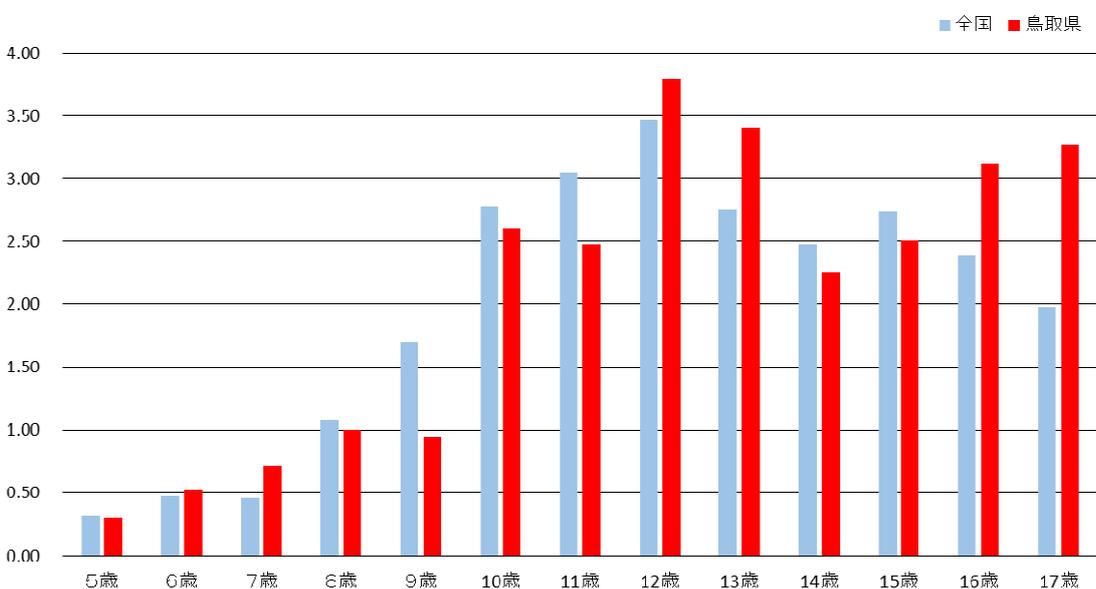


図4-2 年齢別、痩身傾向児の出現率の全国との比較—平成30年度（鳥取県及び全国）



2 健康状態（疾病・異常の被患率等状況）

- ・裸眼（1.0未満）の推移は、中学校及び高等学校で上昇傾向となっている。
- ・むし歯の推移は、昭和50年代をピークに減少傾向となっているが、幼稚園を除きすべての学校区分で全国平均値を上回っている。
- ・アトピー性皮膚炎の推移は、減少傾向となっているが、すべての学校区分で全国平均値を上回っている。
- ・ぜん息の推移は、減少傾向となっているが、幼稚園を除きすべての学校区分で全国平均値を上回っている。

（1）前年度との比較

ア 裸眼視力1.0未満

- ・県全体の割合は、前年度より中学校では増加し、小学校では減少している。
- ・男女別にみると、男子は前年度より中学校で増加し、小学校で減少し、女子は前年度より小学校及び中学校で減少している。

イ 鼻・副鼻腔疾患

- ・県全体の割合は、前年度より小学校及び中学校で増加し、幼稚園及び高等学校で減少している。
- ・男女別にみると、男子は前年度より小学校及び中学校で増加し、女子は前年度より中学校で増加し、小学校及び高等学校で減少している。

ウ むし歯（う歯）

- ・県全体の割合は、前年度より幼稚園で増加し、小学校、中学校及び高等学校で減少している。
- ・男女別にみると、男子は前年度より幼稚園及び小学校で増加し、中学校及び高等学校で減少している。女子は前年度より幼稚園で増加し、小学校、中学校及び高等学校で減少している。

エ アトピー性皮膚炎

- ・県全体の割合は、前年度より中学校及び高等学校で増加し、幼稚園及び小学校で減少している。
- ・男女別にみると、男子は前年度より幼稚園及び中学校で増加し、小学校及び高等学校で減少している。女子は前年度より中学校及び高等学校で増加し、幼稚園及び小学校で減少している。

オ ぜん息

- ・県全体の割合は、前年度より全ての学校区分で減少している。
- ・男女別にみると、男子は前年度より全ての学校区分で減少し、女子は前年度より小学校で増加し、中学校及び高等学校で減少している。

（統計表 第6-1～3表、第7-1～3表、第8表、第9表、第10表、第11表、第12表）

表1 男女別、学校区別の健康状態平均値の前年度との比較－平成29、30年（鳥取県）

(単位:%)

区分		計				男子				女子			
		幼稚園	小学校	中学校	高等学校	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
裸眼視力 1.0未満	平成30年	20.5	31.4	59.6	71.5	17.5	28.1	56.7	68.1	23.5	34.8	62.5	74.9
	平成29年	x	33.3	58.3	x	x	29.3	53.7	x	x	37.5	63.1	x
	差	-	-1.9	1.3	-	-	-1.2	3.0	-	-	-2.7	-0.6	-
鼻・副鼻腔 疾患	平成30年	0.1	17.8	19.8	4.4	0.3	22.3	22.6	5.1	-	13.1	16.9	3.7
	平成29年	0.8	16.7	17.5	11.8	-	19.9	21.0	x	1.5	13.3	13.8	11.6
	差	-0.7	1.1	2.3	-7.4	-	2.4	1.6	-	-	-0.2	3.1	-7.9
むし歯 (う歯)	平成30年	34.1	52.0	38.8	47.3	34.6	55.1	37.7	44.9	33.7	48.9	39.9	49.7
	平成29年	32.1	52.3	41.2	49.3	33.9	53.9	40.1	47.1	30.3	50.7	42.4	51.6
	差	2.0	-0.3	-2.4	-2.0	0.7	1.2	-2.4	-2.2	3.4	-1.8	-2.5	-1.9
アトピー性 皮膚炎	平成30年	2.3	6.0	3.7	3.1	3.2	6.4	3.9	3.0	1.4	5.6	3.6	3.2
	平成29年	2.4	6.3	3.5	3.0	3.1	6.5	3.7	3.2	1.7	6.1	3.3	2.9
	差	-0.1	-0.3	0.2	0.1	0.1	-0.1	0.2	-0.2	-0.3	-0.5	0.3	0.3
ぜん息	平成30年	0.6	5.1	3.1	1.9	1.2	6.2	4.0	2.3	-	4.0	2.1	1.6
	平成29年	1.7	5.3	3.5	2.4	2.0	6.6	4.3	2.6	1.4	3.9	2.6	2.2
	差	-1.1	-0.2	-0.4	-0.5	-0.8	-0.4	-0.3	-0.3	-	0.1	-0.5	-0.6

(注)1 この表は、疾病・異常該当者(疾病・異常に該当する旨健康診断票に記載があった者)の割合の推定値を示したものである。

2 「X」はサンプル数が少なく、誤差が大きい(標準誤差が5%以上)ため統計数値を公表しない。

3 「-」は該当者がいない。

4 むし歯(う歯)には、処置完了者も含む。

(2) 全国平均値との比較

ア 裸眼視力 1.0 未満

- ・県全体の割合は、全国平均値を中学校及び高等学校で上回り、幼稚園及び小学校で下回っている。
- ・男女別にみると、全国平均値を男子、女子ともに中学校及び高等学校で上回り、幼稚園及び小学校で下回っている。

イ 鼻・副鼻腔疾患

- ・県全体の割合は、全国平均値を小学校及び中学校で上回り、幼稚園及び高等学校で下回っている。
- ・男女別にみると、男子は全国平均値を小学校及び中学校で上回り、幼稚園及び高等学校で下回っている。女子は全国平均値を小学校及び中学校で上回り、高等学校で下回っている。

ウ むし歯（う歯）

- ・県全体の割合は、全国平均値を小学校、中学校及び高等学校で上回り、幼稚園で下回っている。
- ・男女別にみると、男子、女子ともに全国平均値を幼稚園で下回っているほかは、全ての男子、女子の学校区分において上回っている。

エ アトピー性皮膚炎

- ・県全体の割合は、全国平均値を全ての学校区分で上回っている。
- ・男女別にみると、女子の幼稚園で全国平均値を下回っているほかは、全ての男子、女子の学校区分において上回っている。

オ ぜん息

- ・県全体の割合は、全国平均値を小学校、中学校及び高等学校で上回り、幼稚園で下回っている。
- ・男女別にみると、男子は小学校、中学校及び高等学校で全国平均値を上回り、幼稚園で下回っている。女子は小学校及び高等学校で全国平均値を上回り、中学校で下回っている。

表2 男女別、学校区別の健康状態平均値の全国との比較－平成30年

(単位:%)

区分	計				男子				女子				
	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	
鳥取県	裸眼視力1.0未満	20.50	31.40	59.60	71.50	17.50	28.10	56.70	68.10	23.50	34.80	62.50	74.90
	鼻・副鼻腔疾患	0.10	17.80	19.80	4.40	0.30	22.30	22.60	5.10	-	13.10	16.90	3.70
	むし歯(う歯)	34.10	52.00	38.80	47.30	34.60	55.10	37.70	44.90	33.70	48.90	39.90	49.70
	アトピー性皮膚炎	2.30	6.00	3.70	3.10	3.20	6.40	3.90	3.00	1.40	5.60	3.60	3.20
	ぜん息	0.60	5.10	3.10	1.90	1.20	6.20	4.00	2.30	-	4.00	2.10	1.60
全国	裸眼視力1.0未満	26.69	34.10	56.04	67.09	26.03	30.61	52.35	64.52	27.37	37.75	59.89	69.52
	鼻・副鼻腔疾患	2.90	13.04	10.99	9.86	3.55	15.78	13.04	10.38	2.23	10.17	8.84	9.32
	むし歯(う歯)	35.10	45.30	35.41	45.36	36.17	46.89	34.08	43.37	34.00	43.63	36.81	47.39
	アトピー性皮膚炎	2.04	3.40	2.85	2.58	2.21	3.65	3.12	2.78	1.86	3.13	2.58	2.36
	ぜん息	1.56	3.51	2.71	1.78	1.86	4.19	3.24	2.01	1.25	2.80	2.16	1.55
差	裸眼視力1.0未満	-6.19	-2.70	3.56	4.41	-8.53	-2.51	4.35	3.58	-3.87	-2.95	2.61	5.38
	鼻・副鼻腔疾患	-2.80	4.76	8.81	-5.46	-3.25	6.52	9.56	-5.28	-	2.93	8.06	-5.62
	むし歯(う歯)	-1.00	6.70	3.39	1.94	-1.57	8.21	3.62	1.53	-0.30	5.27	3.09	2.31
	アトピー性皮膚炎	0.26	2.60	0.85	0.52	0.99	2.75	0.78	0.22	-0.46	2.47	1.02	0.84
	ぜん息	-0.96	1.59	0.39	0.12	-0.66	2.01	0.76	0.29	-	1.20	-0.06	0.05

(注) 1 この表は、疾病・異常該当者(疾病・異常に該当する旨健康診断票に記載があった者)の割合の推定値を示したものである。

2 「X」はサンプル数が少なく、誤差が大きい(標準誤差が5%以上)ため統計数値を公表しない。

3 「-」は該当者がいない。

4 むし歯(う歯)には、処置完了者も含む。

(3) 30年前(親の世代)との比較

ア 裸眼視力1.0未満

- ・すべての学校区分で30年前より増加している。

イ むし歯(う歯)

- ・全ての学校区分において30年前より減少している。

ウ ぜん息

- ・全ての学校区分において30年前より増加している。

表3 男女別、学校区別の健康状態の30年前(親の世代)との比較—昭和63年、平成30年(鳥取県)

(単位:%)

区分	計				男子				女子				
	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	
平成30年	裸眼視力1.0未満	20.50	31.40	59.60	71.50	17.50	28.10	56.70	68.10	23.50	34.80	62.50	74.90
	むし歯(う歯)	34.10	52.00	38.80	47.30	34.60	55.10	37.70	44.90	33.70	48.90	39.90	49.70
	ぜん息	0.60	5.10	3.10	1.90	1.20	6.20	4.00	2.30	-	4.00	2.10	1.60
30年前	裸眼視力1.0未満	18.09	20.66	38.04	57.04	15.44	18.03	33.63	53.60	20.93	23.42	42.70	60.51
	むし歯(う歯)	81.26	94.21	95.61	97.16	82.58	94.14	94.85	96.20	79.83	94.28	96.42	98.12
	ぜん息	0.14	1.33	1.39	0.42	0.22	1.73	1.48	0.29	0.06	0.91	1.29	0.55
差	裸眼視力1.0未満	2.41	10.74	21.56	14.46	2.06	10.07	23.07	14.50	2.57	11.38	19.80	14.39
	むし歯(う歯)	-47.16	-42.21	-56.81	-49.86	-47.98	-39.04	-57.15	-51.30	-46.13	-45.38	-56.52	-48.42
	ぜん息	0.46	3.77	1.71	1.48	0.98	4.47	2.52	2.01	-	3.09	0.81	1.05

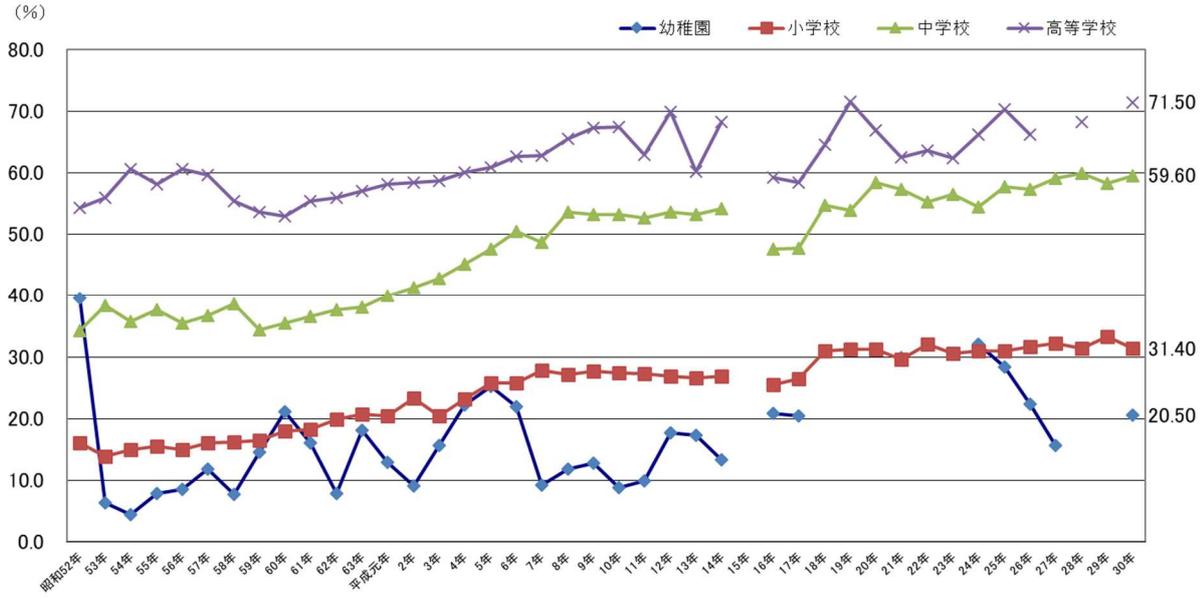
(注)1 この表は、疾病・異常該当者(疾病・異常に該当する旨健康診断票に記載があった者)の割合の推定値を示したものである。

2 「X」はサンプル数が少なく、誤差が大きい(標準誤差が5%以上)ため統計数値を公表しない。

3 むし歯(う歯)には、処置完了者も含む。

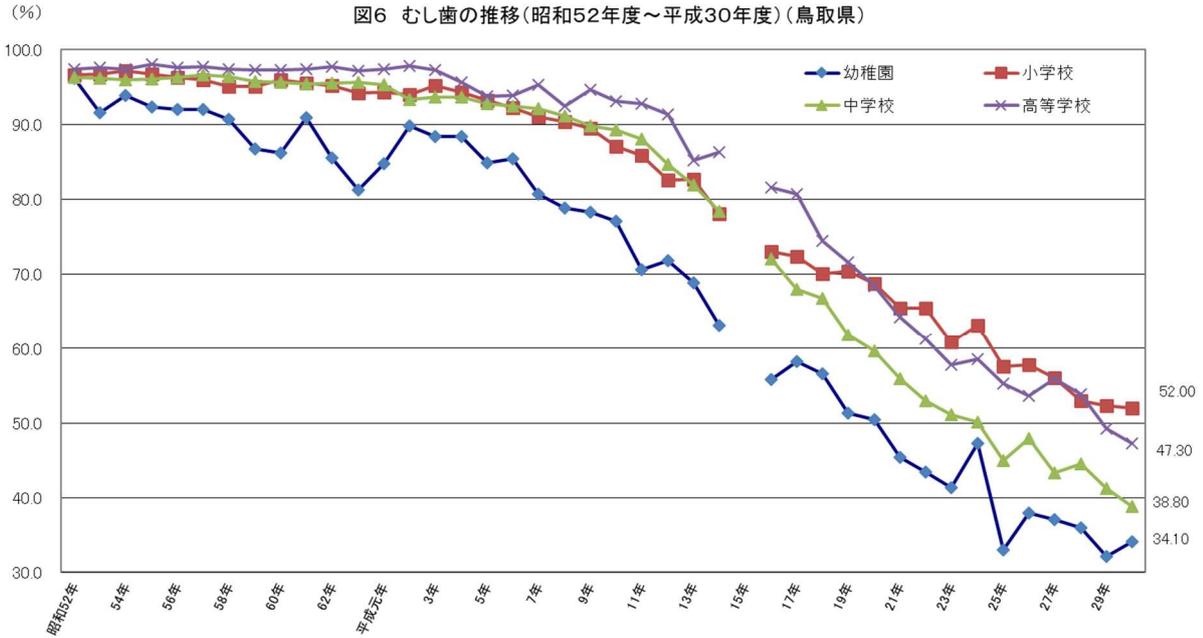
4 30年前(親の世代)は、昭和63年度の数値である。

図5 裸眼視力(1.0未満)の推移(昭和23年度～平成30年度)(鳥取県)



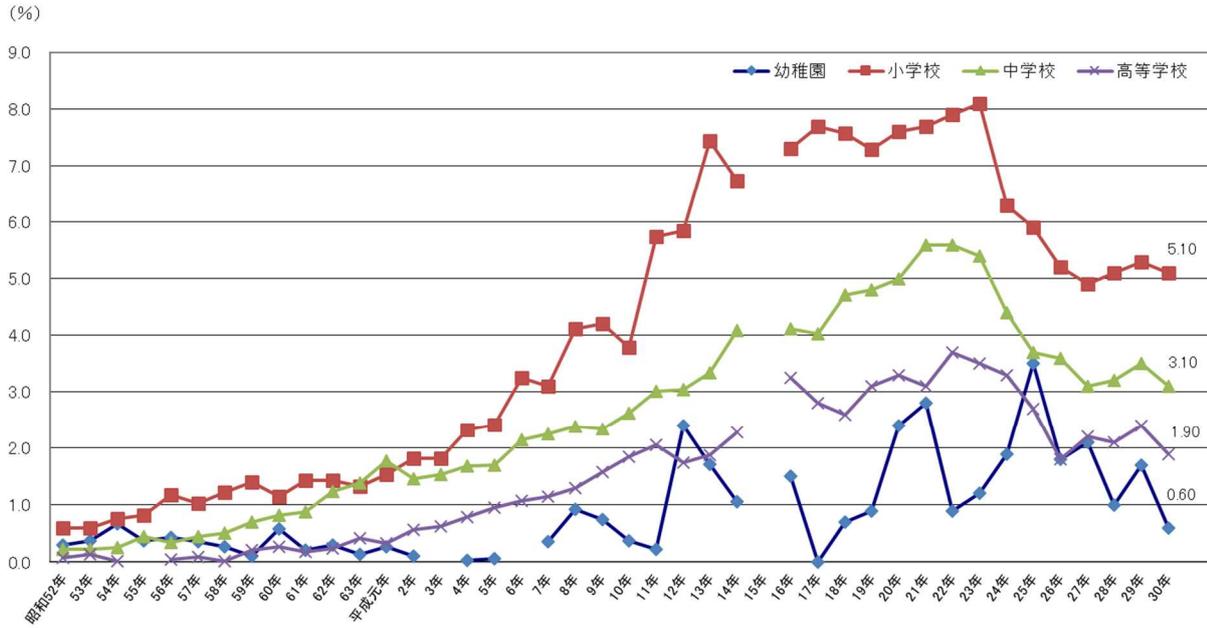
(注) グラフの欠落部分は、「・・・」処理のため連続しない。

図6 むし歯の推移(昭和52年度～平成30年度)(鳥取県)



(注) グラフの欠落部分は、「・・・」処理のため連続しない。

図7 ぜん息の推移(昭和52年度～平成30年度)(鳥取県)



(注) グラフの欠落部分は、「・・・」処理のため連続しない。

3 相談員配置状況

相談員の定期配置が週4時間以上の割合は、中学校及び高等学校で全国を上回っている。

相談員の定期配置が週4時間以上の割合は、中学校及び高等学校で全国を上回り、定期配置が週4時間未満の割合は、小学校で全国を上回っている。

第4表 相談員配置状況（平成30年度）（鳥取県及び全国）

（単位：％）

区 分		有				無
		定期配置		不定期配置		
		週4時間以上	週4時間未満			
小学校	鳥取	4.8 (5.7)	5.9 (3.6)	10.9 (9.7)	78.3 (81.0)	
	全国	13.2 (11.9)	4.2 (5.2)	17.9 (15.9)	64.7 (67.0)	
中学校	鳥取	51.0 (61.9)	1.6 (—)	— (—)	47.4 (38.1)	
	全国	28.3 (28.1)	2.4 (2.5)	7.8 (8.0)	61.5 (61.3)	
高等学校	鳥取	18.8 (15.0)	— (—)	8.8 (8.8)	72.5 (76.3)	
	全国	6.8 (7.2)	1.7 (1.4)	5.8 (2.6)	85.6 (88.8)	

※（ ）内は前年度数値

4 スクールカウンセラー配置状況

スクールカウンセラーの定期配置が週4時間以上の割合は、中学校及び高等学校で全国を上回っている。

スクールカウンセラーの定期配置が週4時間以上の割合は、中学校及び高等学校で全国を上回り、定期配置が週4時間未満の割合は、小学校及び中学校で上回っている。

第5表 スクールカウンセラー配置状況（平成30年度）（鳥取県及び全国）

（単位：％）

区 分		有				無
		定期配置		不定期配置		
		週4時間以上	週4時間未満			
小学校	鳥取	8.3 (8.7)	65.4 (72.3)	25.5 (19.0)	0.8 (—)	
	全国	23.1 (20.1)	28.2 (29.0)	27.3 (24.5)	21.4 (26.4)	
中学校	鳥取	75.3 (82.3)	21.3 (14.2)	3.4 (3.6)	— (—)	
	全国	70.3 (68.3)	21.2 (19.5)	6.7 (7.2)	1.8 (4.9)	
高等学校	鳥取	72.5 (61.3)	21.3 (18.1)	— (8.8)	6.3 (11.9)	
	全国	38.5 (37.8)	29.9 (29.1)	20.2 (18.9)	11.4 (14.2)	

※（ ）内は前年度数値